

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )  
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↑  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家族や地域との交流を継続しながらその方らしく暮らしていく理念がある。		理念に基づき利用者一人一人が地域の中の一員としてその方らしく暮らしていけるよう支援していきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日の朝礼時に理念を唱和し実践を心がけている。		読むだけではなく言葉の意味を理解し実践していく。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	玄関や見やすいホーム内の随所に明示している。地域には広報誌などで理解していただけるよう取り組んでいる。		理念をわかりやすく明示し家族はもちろん訪れる方全てに理解してもらえるよう取り組んで生きたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃の挨拶を始め、違和感や威圧感を感じさせること無く、玄関周りや建物の周囲に家庭的な雰囲気を作り、地域の方も入りやすいように配慮している。		玄関の周りに花や親しみやすい案内板を設置する。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所で祭りを開催したり、地域の祭りに事業所全体でさんかしている。		地域の祭りなどへの参加を継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	健康増進の会や救急法の講習会を開き地域に呼びかけている。		これからも地域に呼びかけ多くの参加をつのる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は自分たちの業務を振り返る良い機会だと認識している。		外部評価はサービス向上の為、結果を真摯に受け止め改善に活かしたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し意見はサービス向上に活かしている		運営推進会議での意見、要望はミーティングの時間などで職員に周知し、具体的に何を行っていくか話し合いサービス向上につなげている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	不明な事は市の担当者に相談している。		今後も良好に連携を図っていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用案内の説明文及び契約書に分かりやすく示し、利用者およびその家族に説明し、同意を得ている。		丁寧な説明を心がける。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で委員会を設置し、事業所ごとに委員を置いて、勉強会を開催し全ての職員が認識を持って業務に取り組んでいる。		勉強会等に積極的に参加し、更に専門的知識を身に付け防止に努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時に丁寧に説明し必ず同意を得ている。</p>	<p>介護保険の制度や事業所の方針なども詳しく説明するようにする。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者、職員が随時利用者に意見や不満が無いか問いかけている。又あった場合にはすぐに改善に向けて取り組んでいる。</p>	<p>今後も利用者との信頼関係を良好に保っていききたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月担当職員からのコメントと写真入のお便りで報告している。</p>	<p>誕生日にはその方だけのお便りを作成している。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会や介護計画書の更新時または、面会時等に意見を聞いている。必要なことは改善するなど運営に反映させている。</p>	<p>今後も利用者の状態を細やかに報告していききたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月の部署会議や日々の業務の仲で出た意見や提案は必ず反映出来るようにしている。</p>	<p>毎月の会議やミーティングの継続。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況の変化や要望に対応出来るよう勤務の調整や業務内容を工夫している。</p>	<p>今後も利用者を中心に出来る限りの工夫をしていききたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>なるべく大幅な異動はしない。又、日頃から職員の悩みや要望を聞き、楽しくやりがいを持てるよう、職員のメンタルケアを心がけている。</p>	<p>チームワークを大切に一人で悩むことのないような職場にしていきたい。</p>
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>各種マニュアルは整備され見やすい場所に置いてある。</p>	<p>随時見直しを行い、内容の変更は早急に行う。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新人職員には育成担当者をつけ、チーム全体で段階的に育成している。研修・勉強会・講習会等を其々が自発的に受けている。又、自己啓発研修は参加費の負担をしている。</p>	<p>希望した研修には勤務調整等で無理なく参加出来る様に協力し合う。又、研修課題等の取り組みについて取り組みやすい職場の環境作りをしていく。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内のグループホームで連絡会を設け、定期的に情報交換をしている。又、利用者を含め交流会を行っている。</p>	<p>横断的連携を有効に使いサービスの向上を図っていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>サービス残業を無くす。定期的に面接を行い、直面している問題や悩みを聞き、解決に向かえるような助言等をしている。業務に無理が無い点検している。</p>	<p>認知症介護はとでもストレスがたまる事を常に理解している。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個人差はあるが、職員が次の資格や知識、技術の向上を目指している事は把握している。</p>	<p>目標を持って仕事出来る様、各自が目標設定をし達成出来るための支援をしている。目標に対して取り組みやすいような職場の環境作りをしている。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>何に困っていてどういう生活を望んでいるのか、又、その為に何を手伝えればいいのか聴く機会を作り受け止めている。</p>	<p>利用者が自分の気持ちを表現しやすいような雰囲気や話し方にも配慮する。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族は何が困っているのか、グループホームに入居する事に対しての不安・要望をきちんと受け止めている。又、それまで行ってきた介護を労う事を忘れない。</p>	<p>家族の気持ちを表現しやすいような雰囲気や話し方にも配慮する。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在満員の為すぐに入居出来ない場合は、他の事業所に問い合わせをしたり在宅で利用可能なサービスを提案している。		地域包括介護支援センター等との連携を強化していく。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にホームを見学に来て頂いたり、食事やお茶を一緒に飲んで頂いたり、必要ならば宿泊して体験出来る。		何度か体験的に利用してからの入居が出来るように働きかけを行っていく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理を作ったり裁縫をしてもらったり、食事の盛り付けや片付け等一緒に出来る事はやっていただき、支えあう関係を保っている。		声かけをして一緒に出来る事は行えるよう支援している。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ほんの些細な事でも報告をして情報の共有に努めている。又、家族が意見や要望を気軽に言えるような関係を築いている。		今後も家族との情報共有に努めていく。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会時には利用者の様子を伝えたり、遠方の家族には電話で連絡を取り、意見や要望を引き出せるように働きかけている。		今後も継続していきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人宅・家族・馴染みの店・や行きつけの美容院等へ変わらず行けるよう支援している。		好きな時に好きな場所へ行く事が出来るよう支援している。個別に外出マニュアルを作成し馴染みの関係が途切れないよう支援している。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士のトラブルが起こらないよう職員間で情報を共有し、適宜仲裁に入る等対応を徹底している。		トラブルが起きないよう又、一人が孤立する事の無いよう職員一人一人が気を配っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居の場合は退居後の受け入れ先を探す等の支援をし、スムーズに移れるよう情報提供を行っている。		退居しても管理者や職員が次の施設や病院に会いに行っている。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に一人一人の思いを引き出せるよう関わっている。		意思表示の出来ない利用者については家族からの情報や職員の気づき等を情報共有し、把握に努めている。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴を把握し、今までと変わらない過ごし方をしていただけるような介護計画書を作成したり、家族に話しを聞く等して把握に努めている。		個人のファイルでいつでも生活歴や生活環境を知る事が出来る為、個人情報に配慮しながら把握に努める。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	特変や状態の変化があった場合申し送りや業務日誌、生活記録に記入し、チーム全体で把握している。		日々の申し送りや記録物等で利用者の状態を把握出来るよう職員自ら情報収集を行っている。
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりやその記録の中から利用者の希望や意見を引き出し、介護計画に反映させている。その都度家族にも相談している。		チームでモニタリングやアセスメントをして本人の希望とする生活を目指し介護計画を作成している。家族の意見も取り入れている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に明示3ヶ月を目処に評価を行い見直しをしている。状態変化があった場合には、随時見直しを行い介護計画書に追加している。		状態変化があった場合には、随時見直しを行い現状に即した新しい介護計画を作成し実践している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録や気づいた点の詳細を個別記録に記入し、申し送り等で情報共有している。		個別の記録に記入、読んで確認する事により情報の共有が出来ている。日々の記録の把握により介護計画へ反映していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者により併設のデイサービスへ行ったり、トレーニング機器を利用している。		要望を受け入れられる柔軟な対応・支援が出来るよう他部署からも協力を得ている。
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	歌・料理・行事等において地域の学生や近隣主婦のボランティアに参加頂き交流している。		地域の消防署からも協力を得ているが、近隣に防災協力を依頼し、災害協力員として体制作りが出来た。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	社会福祉協議会の職員や他の施設のケアマネ等と定期的に情報交換を行っている。		本人の意向や必要時は積極的に働きかけをしていかなければならない。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護については本人の意向により、社会福祉協議会の担当者を含め総合的に検討しあっている。		本人の意向や必要時は積極的に働きかけをしていかなければならない。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からかかりつけ医を持ち信頼関係を築いている方はそのまま継続をし、そうでない方には適切な医療機関を受診出来るよう支援している。		利用者、家族の希望を聞きながら受けたい医療を受けられるよう支援していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医を定期的を受診し、現状の報告・相談をし、指導・助言を受けている。		内科的な治療だけではなく、認知症についても継続した治療が受けられるように専門医との連携を図っていく。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が定期的に健康チェックをしている。又、体調変化や急変時にはすぐに対応している。		看護師が記録を残し情報共有している。又、その後の状態も引き続き報告しあっている。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院した医療機関と連携し、早期に退院が出来るように調整している。		利用者にとって一番安心出来る場所が提供出来る様医療機関とも連携をとっていきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師の診断や利用者・家族の希望を受け止めて十分に話し合っている。		話し合いの結果・方針を職員全員が共有している。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期の対応については自分たちがどこまで出来るのかを見極め今後の検討をしている。		今後の変化に備え検討・準備を早急に行う。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族・別の居所の関係者ときめ細かい情報交換を行い、本人のダメージを可能な限り防いでいる。		利用者がより生きがいのある暮らしが出来る為の話し合いをする。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人一人の違いを尊重し個別の対応が行われている。		その方に合った声かけや対応を行っている。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	活動や服装についても利用者の自己決定が尊重されている。		利用者の要望を引き出せるような働きかけや雰囲気作りを大切にしたい。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の関わりで無理強いせず個々のペースを大切に、自由に過ごしていけるよう支援している。		利用者が希望を表出しやすいような働きかけや雰囲気作りをしていきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居前から行っていた美容院へ行けるよう支援している。		店の人との交流が途絶えないように支援している。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌いを把握し、準備や後片付けも職員と一緒にしている。		その方に合わせ活動内容も検討している。
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者が望む食べ物やお酒・タバコなども状況に合わせて楽しめるよう支援している。		火の始末、お酒の量等さりげない配慮を徹底している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の自立に向けた支援が実施されているが困難な利用者に対して上手いかわない為、改善が必要。		個々に合った声かけや対応の仕方を検討する。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者其々の希望に合わせ、時間等は決めていない。		一人一人に合わせた用具を使用する等、一人でも安全に入浴が出来る様環境整備をしていく。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握して対応している。日中の活動を通じ生活リズムを整え気持ちよく眠れるよう支援している。		眠れない時は読書や職員と話しをしたりする事で気持ちが安定できるような支援をしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	動植物の世話やごみ捨て・書道・食事作り等ここに合わせた役割や楽しみ・気晴らしの支援をしている。		利用者の得意な事好きな事を把握してその方に合った活動を支援していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や能力に応じて自分で金銭の管理をし、自由に使っている利用者もいる。		自己管理が困難な利用者には職員と一緒に買い物に行き、本人がお金を支払える場面作りをしている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外に出かけられるよう計画を立てたり、その日の希望に沿って出かけられるよう支援している。		急な外出の希望にも柔軟に対応していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日の企画等で普段は行けないような場所へも出かけられるよう支援している。		日帰り旅行等を企画し家族にも声をかけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人への手紙や電話はいつでもやり取りが出来るよう支援している。		手紙については利用者宛に届くと返事を書くなど交流が続くよう支援していく。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人が訪れ易いように迎える態度や雰囲気配慮している。		リラックス出来る場所をセッティングし、湯茶の用意をし、くつろいで頂いている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の対象となる具体的な行為を理解し、実践している。		見守りの方法等を工夫している。身体拘束は行っていない。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は掛けていない。		鍵は掛けない。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーに配慮しながら様子や所在を確認、把握している。		玄関のチャイムに迅速に対応し、出入りの確認を行い離棟等の無いようにしている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤類は倉庫など決められた場所に保管している。包丁も取り扱いに注意し危険の無いように配慮している。		包丁を使用している利用者には職員が見守るなど危険の回避を怠らない。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告やひやりはっと等を記録として残し、ミーティングなどで話し合い、再発防止を行っている。		定期的に救急法や防災訓練を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルはあるが無いようの理解には個人差がある。		救急法の講習会や定期的な勉強会を行っている。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時協力員として近隣の方から承諾を得ている。		支援内容を明示し協力を頂いている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては家族に相談し対応策を話し合っている。		利用者が暮らしにくいと感じる事の無いよう配慮している。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	疾患に応じて定期的にバイタルチェックを行い記録している。又、職員が気づいた事や気になる事は申し送りをしている。		些細な事にも敏感に反応し受診などの対応をとっている。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の支持通りに服用出来るよう支援している。		副作用についての理解を深めたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防や排便誘導について個別に介護計画に入れ取り組んでいる。		便秘予防の為食事内容の工夫をしていく。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	介助の必要な利用者には行っている。介助の必要が無い利用者については声かけをし支援している。		定期的な歯科受診を検討している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食べる量やバランスを考えて献立を考えている。利用者によっては摂取量を記録している。		管理栄養士から献立表を評価してもらい改善点を教えてもらっている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルをもとに対応している。定期的に勉強会も開催している。		感染対策委員を中心に予防を徹底している。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防の為食材は新鮮で安全な物を使用している。又、調理器具等の衛生管理も行っている。		調理器具の除菌・冷蔵庫の温度管理等チェック表を使用し、確認している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関や敷地内に花などを育て近隣の人達と花の話題で交流したり、親しみやすい雰囲気作りをしている。		玄関が分かり易いように看板を取り付けたり、季節毎に花の植え替え等を行っている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁は季節感のある装飾や手作りの暖簾等家庭的な雰囲気を出せるよう工夫している。		季節感のある作品を作成し飾る事で利用者の励みにもなっている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空いている空間にソファやテーブルを置き、気の合う利用者同士が過ごせるよう工夫している。		一人で過ごしたい時はその旨理解し支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた物を持ち込んでいる。本人・家族と相談し、筆筒やベッド等の配置をしている。		職員から見るともう少し整理したいと感じられる居室はある。しかし本人の希望を尊重し本人が使い易いような空間作りをしている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は1時間に1回程度行い冷暖房の使用時は冷やし過ぎや乾燥などに注意し加湿器を使用している。温度湿度管理をし記録に残している。		夏の暑い時に居室で過ごされている場合は温度管理に充分注意する。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器を使用し自立した生活を送っている利用者が多い。歩行器を置く場所を確保出来る様食堂の席などを工夫している。		歩行器を使用し安全に生活出来るよう環境を整えていく。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの戸には分かりやすい表示と使用中なのか空いているのかの表示札を作成し、取り付けている。		表示札をつけた事によりトイレを使用する事のトラブルは減ったが、利用者の中には確実には出来ない方もおり、職員によるフォローは必要である。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外回りには草花を植え、水遣りを日課としている。ベランダには野菜・花を育て収穫や季節の楽しみに活かされている。		外周りやベランダでの活動が出来る季節は限られている為効率的に活動していきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

壁の飾りや季節感にこだわり、ホーム内の環境作りや季節毎の野菜の収穫等に出かけ、季節を感じられるよう力を入れている。